2月7日は ふるさとの日

福井県は今年126歳

福井県では、明治14年に福井県が置県された2月7日を「ふるさとの日」とする条例を制定（昭和57年）、この日は、県民一人ひとりが、郷土についての理解と関心を深め、より豊かな郷土を築くことを期する日とされ、毎年県内市町でふるさと福井への理解を深めるさまざまなイベントが繰り広げられています。

また、「ふるさとの日」には、地方自治の振興および社会福祉、産業、教育、文化などの発展に貢献し、その功績が顕著な個人または団体を、県政功労者として表彰が行われています。

今年の受賞者は、個人45人と2団体で、南越前町では次の3人の方々が表彰を受けられました。

平成19年県政功労者知事表彰

自治振興功労者

高嶋　艣さん
（栄・76歳）

今庄町議会議員、同副議長および同議長、南越前町議会議員として34年9カ月を務めるなど、町民福祉の向上と町勢の発展に寄与しました。

受賞の声

名誉な賞を頂きありがとうございます。これからも地域の皆さんと共に、頑張りたいと思っています。

港湾振興功労者

加藤　義一さん
（東大道・85歳）

35年の長きにわたり、高度な専門的知識に基づき、港湾に入出港する船舶を安全、迅速に案内し、福井県港湾の振興に寄与しました。現福井県水先人会会長。

受賞の声

敦賀港や福井港など県内の港を、一日も休まず、事故も無く船の運航に務めてきました。皆さんや家族のお陰と感謝し受賞を喜んでいます。

自治振興功労者

髙屋　保男さん
（西大道・73歳）

南日野村役場に奉職以来、南条町吏員として32年精励後同収入役を12年間、助役を4年間務めるなど、町勢の発展に寄与しました。

受賞の声

昭和25年4月に南日野村書記補に採用以来、48年余もの間、皆様のご指導とご庇護に甘え席を穢していただけなのに光栄です。南条町発足当時からの多くのまちづくり施策拡大充実期に遇い関わることができたことは幸いでした。

豊かな郷土に

若い人が集まる活気のある町に！

南越前町 山海里PR隊

平成17年1月に南越前町が誕生。5月に、南越前町の観光事業やイベントなどを積極的にPRする、南越前町山海里PR隊が結成されました。

これまでを振り返り、活動を通して感じた町への思いなどを語ってもらいました。

三田村愛美さん
（東大道・24歳）

この2年間、看護師をしながらPR隊の活動を行ってきました。看護師ほどやりがいのある仕事は他にはないと思っていた私ですが、PR隊の活動を通じて看護師以外にもやりがいのあること、自分ができることがあるということに気づきました。PR隊の活動はマナー教室での歩き方の練習から始まり、報道機関へのイベント告知や雨の中のチラシ配り、600個のチョコ作りなど楽しいことだけではなく大変なことも多くありましたが、喜ばれることが多かったから働きながら続けられたんだと思います。

また、より多くの方に南越前町の良さを知っていただきたいという思いで、そのためにはどうしたらいいか、何を伝えればいいのかを常に考えていました。そして「南越前町のはすの花はきれいだね」「そばや海の幸はおいしいね」と言われることがうれしくて、南越前町を自信をもってPRしました。私自身、南越前町の魅力を再確認し、ますます好きになりました！

中山あすかさん
（鯖江市・22歳）

「南越前町ってどこ?」から始まったわたしのPR隊活動。今では「南越前町のことなら何でも聞いて！」というくらい、私の第二の故郷のような場所になりました。

そして1年を通して多くの催しがあるこの町で、春夏秋冬、山と海と里の素晴らしさを凝縮して一番身近でそれらを感じられたことは、とても貴重な体験となりました。

私は特に街道浪漫今庄宿が好きです。地元のみなさんをすごく近くに感じることができるこのイベントはとても素敵だと思います。

これまで、多くのイベントを通してたくさんの人々に出会い、町の人々の温かさを感じました。南越前町のみなさん、本当にありがとうございました。PR隊を卒業しても、この町の良さを、周囲の人に伝えていきたいと思います。

高橋亜由美さん
（東谷・23歳）

PR隊活動も、あともう少しになりました。PR隊になってよかったと思うことは、いろんな角度から南越前町を見ることができ、私が今まで知らなかった南越前町を知ることができたことです。

PR隊の活動は、テレビやラジオ番組の出演、県内外への出向宣伝など、初めてのことばかりでしたが、なかなか経験出来ないことで、一生の思い出になりました。そして多くの人たちに出会え、またふれあうことができて、本当によかったと思います。みなさんから「ありがとう」、「がんばって」と励ましの言葉もたくさんもらい、2年間頑張ることができました。

次のPR隊になられる皆さん、頑張ってください。

豊かな郷土に

寄稿 ふるさとを想う
東京南越前郷友会

南越前町から就職・結婚などで関東方面に居住されている町出身者で構成する、東京南越前郷友会の第２回総会が、１月21日、東京都新宿の厚生年金会館で開かれました。

この会は、50年続いた「東京南条郷友会」が、合併に伴い、新たに「東京南越前郷友会」として昨年発足。会員数は244人（旧南条町193人、旧今庄町40人、旧河野村11人）で、会長は川嵜利雄さん（流山市在住）。

年に１回総会を開き、上京した増澤町長や仲倉県議会議員らから南越前町の動きや事業内容、様子などを聞いたり、お互いの近況を語りあったりして、同郷の輪を広めようと活動しています。今回、福井県のふるさとの日にちなみ、故郷の思い出などを寄稿していただきました。

私は、一年前の65歳まで病院で看護師として勤めていました。夜勤の過酷さにも耐え、二人の息子を育てながらの生活はただ無我夢中だったように思います。今は仕事を離れ、息子達も独立し主人と二人の平穏な日々。その平凡で淡々とした日々の中で、今卓球とコーラス等に挑戦していますが、多くの人と心を集中させ、背筋を伸ばし歌っていると、人間の声のハーモニーの美しさに感動します。そしてこの時、私の脳裏には、ふるさとの囲炉裏を囲み、父が歌を歌いその傍らに母が居て、姉妹で盆踊りをした事を思い出します。

年齢を重ねてきて、今また自分の想いは、ふるさとにある、いや、あのふるさとがあって今の自分があるのかもしれないと思い巡らせるこの頃です。

柏渕　法子さん
（旧性橋本・赤萩出身・65歳）

「つらかったらすぐ帰るのよ」と母の涙声を背に受けたあの日から半世紀以上過ぎ去りました。大吹雪の日には、ござぼうしをかぶり、馬の背のような道を、がぶりながら歩いた事、またおさらになった日は、田んぼの中を歩いて学校に向かったこと、今でも鮮明に思い出されます。

故郷の四季折々にみせる自然の姿、実家から眺める日野山は見事なものです。雲がたなびいて帯を締めたような日野山、その様子を見て昔の人は天気を占い仕事に励んだそうです。

毎年の郷友会に、町長様、議長様から町の発展に努力されているお話を伺っては、一つ一つの積み重ねで、日々近代化されていく故郷を誇らしく感じています。

富永　雅子さん
（旧姓澤崎・東谷出身・72歳）

小生今年で70歳、勝山の高校を卒業し上京して早半世紀以上が過ぎました。小生の育った上牧谷は、北杣山村の一番奥にあり、小学校まで2キロ、中学校まで3キロ、毎日歩いて通った峠は、冬は雪が深く坂に足を取られ、中学生になり自転車通学となっても一気に峠は上がれず、自転車を押して通学したことが思い出されます。その時代、峠の上に総合運動公園ができるなど誰が想像したでしょう。その反面、我々が通った北杣山小学校は跡形も無く、前を通るたび寂しい思いをするのは小生だけでしょうか。

帰省は3年に一度の日野中同窓会と冠婚葬祭のみ。故郷に帰る途中、米原駅で北陸線に乗り換えると、あの懐かしい言葉「あの～」と語尾を延ばす声を聞くと途端に心は田舎に帰り、そして南条駅が近くなり車窓から日野山が見えた時、本当に故郷に帰って来たと心が和みます。

今は、仕事も辞め、本籍も今後のため泣く泣く千葉に移しました。少しでもこの東京南越前郷友会で、会長のもと関東に在住する皆さんのお役に立てればと頑張っています。

橋本　克明さん
（上牧谷出身・70歳）

故郷を思うとき、旧北陸線をまず思う。旧北陸線は、単線で蒸気機関車が引っ張る汽車で、今庄―敦賀間には11のトンネルと山中、新保と2つのスイッチバックを含む6つの駅があり、所要時間は約1時間。今庄駅では上りは前と後ろに機関車を増結し、下りはそれを切り離す仕事で、どの列車も5分から10分の停車時間があった。駅も本体と機関区、保線区があり、ホームでは、名物の立ち食いソバにたくさんの人が列を作り賑やかだった。昭和30年、大阪の大学に進学し、帰郷は大阪から列車で4時間。敦賀に着くと今庄まであと一時間という安心感で、一合のお酒とかまぼこを買い食いするのが楽しみだった。

ところが、昭和37年、北陸トンネルが開通し電化と複線化で大幅に時間が短縮され、北陸と関西、関東の距離が近くなった。北陸地方の経済の発展に大きく貢献したようだが、駅の現状は、ガラリ一変し雲泥の差となった。寂しい気もするが、故郷を離れ、北陸全体を見渡した時、小さなことにはこだわるべきではないと自分に言い聞かせ、懐かしんでいる。

赤星　龍二さん
（今庄出身・70歳）

私は、昭和15年9月生まれ。9月の菊の節句には酒に菊花を浸し飲み、健康長寿を願ったりしています。

子供時代を今振り返れば、農家育ちの貧しい生活でした。両親は毎日、日の暮れるまで田畑で働き、兄弟一緒に嫌々仕事を手伝わされました。しかし、今にして思えば、親の働く姿を見よう見真似で学んだようで、自分にプラスになったと喜んでいます。

昭和30年に東京伯母の木材問屋に就職し、現在は千葉県市川で細々と㈲国分木材を営んでいます。お盆には孫を連れ、故郷へ母の墓参りに行き、上野のやんしき踊りを見物します。そして、そまやまの温泉を楽しみ、河野に海水浴に行きます。また、おろしソバの美味しさなど、山海の珍味等々も楽しみです。

故郷は遠くにありて想うもの…生まれ育った故郷は最高だといつ訪れても思います。

小川　博美さん
（上野出身・66歳）

私が生まれ育った牧谷地区は、冬ともなると子ども達は雪の中の一本道を学校まで約50分かけて歩き、寒くても皆仲良く、時には喧嘩したりふざけあいながら、それでもそれ程の苦痛は感じなかったし、学校に着く頃には体は汗ばむくらいで、子どもの頃はみんな頬が真っ赤で元気一杯でした。春は、野山に行き、桜やつつじ、万作の花採り、夏は川で泳いだり魚とり等。秋は、山で栗やアケビ採り、冬は子どもスキーで段々畑や田んぼの土手などで遊び、とても楽しかったことなどを思い出しています。干し柿、サツマイモなどが冬のおやつでした。中でも祖母が囲炉裏の灰の中で焼いてくれた焼き芋が一番の嬉しい好物でした。今では考えられないことでも私には最高の心に残る思い出です。

大久保洋子さん
（旧姓五十嵐・上牧谷出身・75歳）

私は小さいけれど会社を経営している。社名を日野産業という。命名の時、日野山・日野川、日野中学校（現南条中）が浮かんだからである。幼い時の印象が、素直に出てきた〝日野〟に愛着を感じているからだろう。故郷を離れ40年余になるが、少年期の記憶が強く残っている。野山に行って柿やアケビを取ったり、谷川で岩魚やクソッパを手で捕まえたりしていた頃が思い出に残っている。

帰郷して当時を辿っても昔の形が無く、寂しい気持ちで一杯だ。最近は地元の味を賞味することを楽しみにしている。河野のズワイ蟹で今庄の地酒―聖の御代を飲み、そのあと今庄のソバを食して田舎料理を偲ぶのが至福のひととき。実家の姉さん（兄嫁）どうしているかなーいつも気にかかっている。春には帰って孝行しようと思う。待っていてください。

川嵜　利雄さん
（上牧谷出身・72歳）

故郷の皆様にお願い

当会は、昭和29年の結成以来52年続いている親睦会で、現在関東方面に居住する南越前町出身者で結成しています。

その昔、学校を卒業と共に上京し、就職しているものが帰郷できない時など、一堂に集まって田舎弁で話し慰め合い、励まし合って明日の活力を養ったのがルーツです。

現在、会員らは本当に故郷を忘れがたく懐かしんでいますが、次第に会員数も減少、高齢となり、新しく入会される方を募集している次第です。

在郷の皆様で、お子さんやご親戚、知人の方で関東へ就職・結婚等で居住されている方がいらっしゃいましたら、当会のことをお知らせ頂き、入会される様お勧めください。

■連絡先（当会事務局）
笛吹税務会計事務所　笛吹　潔
TEL 03-3356-1140